

自らに問う

昨年11月に「土木学会特別上級技術者」資格試験を受験しました。試験は口頭試験の形で行われました。試験官3名より30分間に受けた質問のうち、以下のような問いかけがありました。

「あなたは土木技術者として、この後どのようにして生きていくつもりですか」

「あなたは日本の建設業をどのようにしていきたいと考えていますか」

「公共工事は今後どうあるべきであると考えますか」

物事の本質に迫る内容について、短い時間とはいえ集中的に考え、答えるうちに不思議にこれまではっきりしなかった答えが見つかり、頭がすっきりしていくことを感じました。

「業務の失敗事例を話してください」

「普段どのような本を読んでいますか」

などという類の質問は自らの潜在意識に問いかけている問いであるのに対して、前述の質問は私の潜在意識に問う質問でした。人は潜在意識に問いかけられると普段気づいていない

自分の気持ちに気づくようです。

感性論哲学の吉村思風先生は、このことを次のように言われています。

「自分で自分を教育しなさい。それは、自分で自分に問いかけることです。」

先行きの不透明感は、2004年も続くことでしょう。公共投資額は、削減率は減少したものの続減です。住宅減税は継続されましたが今後徐々に減少することが明言されました。期待は民間設備投資ですが、上向き基調とはいえ、楽観はできません。

こんなときだからこそ、次のような問いを自らに問いかけ続けることで、その答えを探る1年にしたいと思います。

「私は、2004年をどんな1年にしたいのでしょうか」

「私は、この会社をどんな会社になりたいのでしょうか」

(降旗 達生)



坂田工業株式会社の声

2003年4月にISO9001認証取得されました坂田工業株式会社(東京都足立区 建設設備業 代表取締役坂田修一様 社員数10名)の常務取締役品川 研様、総務部長 國方勢津子様にお話を伺いました。

ISO認証取得おめでとうございます。認証取得して、良かったことは何ですか。3つあります。1つ目は5S、2つ目はコミュニケーション、3つ目は社員満足です。まずは、5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)が徹底したことです。お恥ずかしいことですが、これまで散らかっていた入り口の靴を靴箱にしまうようになって、お客様に誉められたこともありました。また倉庫の整理、整頓が進んだことでこれまで余分にかかっていた材料費を削減することができました。事務所も使いやすいように随時配置変更するようになり、業務効率が上がりました。

事務所には清潔感があふれていますね。2つ目に、会議をきちんと開くことができるようになったことです。これまで「現場が忙しい」といえば会議に参加しなくてもよいムードがあったり、現場が忙しくて集まれないだろうということで会議を開催せず、必要な情報交換さえされていない状況がありました。

みんなが顔をあわせる場ができたことで、3つ目の社員満足度が上がったように思います。また、社員さんへの福利厚生面も「きちんと」実施することができる様になりました。

あたりまえのことを「きちんと」とやる事が案外難しいですからね。今後、どのようにしてISOを活用して業績アップにつなげようと考えておられるかをお聞かせください。

書類作成がもうすでに形骸化していたり、表面的な活動になっている部分があります。内部監査をしっかりと行って改善していきたいです。そのためにも、内部監査員に対する教育をさらに実行していくつもりです。

ありがとうございました。ますますすばらしい会社作りにぜひともISOを活用してください。

取材後記；坂田工業様は8社共同でISOを取得されました。チャンスを積極的につかみ、生かしられました。建築設備工事を得意とする専門工事会社ですが、できるところからやりきろうという姿勢がすばらしく、現在業績好調です。

建設業者のための建設業法 21の鉄則② 工事現場における8つの鉄則

- 鉄則1 建設業者は、工事現場に、主任技術者又は監理技術者を配置しなければならない。
- 鉄則2 個人住宅を除くほとんどの工事では、請負金額が2,500万円(建築一式工事の場合は5,000万円)以上の工事に係る主任技術者又は監理技術者は、その工事現場に専任しなければならない。
- 鉄則3 「一式工事に含まれる専門工事」又は「附帯工事」を自ら施工する場合には「専門技術者」を配置しなければならない。
- 鉄則4 J V (建設工事共同企業体) 工事では、すべての構成員が技術者を現場に配置しなければならない。
- 鉄則5 一括下請負はしない、させない!!
- 鉄則6 無許可業者に下請代金が500万円以上の建設工事を下請負してはならない。
- 鉄則7 発注者から直接建設工事を請け負った特定建設業者は、施工体制台帳・施工体系図を活用した現場管理により、不良・不適格業者を排除しなければならない。
- 鉄則8 建設工事の下請負人の法令遵守を徹底するため、作成特定建設業者は、末端までのすべての下請負人に対する指導義務を適切に行うよう努めなければならない。

『建通新聞 2003年11月21日』より

報連相コンサルタント滝澤道幸の報連相なんでも相談室!

第1回 会議室編

コンサルタント会社へお勤めの 営業担当Wさんからのご相談です。

『会議で発言しても採用されたことがありません。意見を言えと上司は言いますが、上司の自問自答で解決してしまいます。そのたびにやる気がなえてしまいますが、どうしたらよいのでしょうか?』

会議というのは、上司と部下、同僚との間で報告、連絡、相談(指示、命令、依頼も)を同時にできる場ということにお気づきでしょうか。だからこそ、このITの時代にわざわざ手間ヒマお金をかけて皆が集まる価値があるのです。また、会議には、「報告」「指示」だけでなく、そのほか「連絡」「相談」などもある、という考え方があるなしで、会議がうまくいっている会社、うまくいっていない会社、それぞれ会議のやり方が会社ごとに差が出ているのです。そして、会議の雰囲気や会社の社風(「会社の性格」のようなもの)もあらわします。

今回の質問は、個人的で単純な悩みのようにとらえがちですが、会社全体の社風、風通し、すなわち「会社全体の報連相のあり方」に関わる重要なことが含まれています。

Wさんへのアドバイス

この質問の問題意識は(悩みは)会社・職場全体の社風に関わることです。自分だけが悩んでいるのではなく、他の社員の方々も悩んでいるかもしれないという風に考えてください。

あきらめずに、上司の手助けになるような報告、提案をやり続けてください。上司から指示されてから報告するのではなく、指示をうける「一步前に」意識して報告、提案してゆくことを実践してみたいと思います。

それには、上司がどのような方針や考え方をもっているのか、平日頃から理解しておく必要があるでしょう。

Wさんへアドバイス

Wさんの仕事の状況を上司から「どうなっているんだ」と聞かれる「前に」、進捗状況をこまめに上司に報告するようにしましょう。それによって、上司の方が「Wさんには安心して仕事を任せてもよい」と思うようになっていくでしょう。そうしてだんだん、意見を聞いてくれるようになるはずですよ。

Wさんへアドバイス

同じ悩みをもっている同僚がいるとおもわれますので、少しずつ同僚と悩みを打ち明けるようにしましょう。上司に意見を聞いてもらうにはどうしたらよいか。同僚同士で考え、話し続けてみましょう。注意しなければならないのは、何事も上司のせいにしてたり、上司の悪口だけになってしまったりしないようにしてください。

Wさん、このアドバイスを試してみて、結果を後日ご「報告」ください。

おしらせ

弊社HPが新しくなりました!

2003年12月26日より、弊社HPが装いも新たになりました。お客様の声、弊社が開催しているセミナーのご案内、事業内容、コンサルタントのプロフィールなどなど、みどころ満載です。

「報連相なんでも相談室」の質問、ご意見・ご感想をお聞かせください。

日ごろの業務で悩んでいること、疑問に思っていること、何でも結構です。プライバシーはもちろん守ります。どしどしお寄せください。

F A X 052-533-9689 E-mail info@hata-web.com 担当 澁谷